

造影MRI検査 同意書

1) ガドリニウム造影剤について

MRI検査で使用する造影剤は、主にガドリニウム製剤です。（肝臓の検査を行うときには、目的によって鉄製剤を用いる事があります。）診断にあたって情報量を増やすために画像に明暗をつける検査薬です。MRI検査の場合、一般的には、最初に造影剤を使わずに撮影します。（単純MRI検査）。続いて、静脈から造影剤を注入して、撮影を行います。腎機能が正常であれば、注射後6時間で80%以上、1日でほぼ全て腎臓から尿として排泄されます。

2) 造影MRI検査を行うことによる利点

単純MRI 検査に、造影MRI 検査を加えることにより、以下に述べるさまざまな利点があり、よりいっそう正確な画像診断が可能となります。そのため副作用発生の可能性が高くなる場合でも、造影MRI 検査による診断が必要な場合、医師は造影検査を勧めることがあります。

- A) 血管の詳しい情報を得ることができる。
（例）閉塞、狭窄、血管奇形、解離などの診断および腫瘍と血管の関係の把握
- B) 各種臓器の血流の情報を得ることができる。
（例）腎臓、脾臓の梗塞の診断など。
- C) かたまりをつくる病気（腫瘍・膿瘍）などの検出が容易になる。
（例）肝腫瘍や腎腫瘍の検出など。
- D) 病変の性状の画像診断に有用である。
（例）肝腫瘍の良悪性の鑑別や悪性腫瘍・血管腫・嚢胞の鑑別など
- E) ほかにも病気の種類によって多くの利点があります。

3) 造影剤の副作用

- ・軽い副作用（発生頻度1%程度 100人につき1人）
【吐き気・動悸・頭痛・かゆみ・発疹など】特に治療を要しないことが多い。
- ・重い副作用（発生頻度0.0065% 約1.5万人に1人）
【呼吸困難・意識障害・血圧低下など】治療が必要で、後遺症が残る可能性があります。

*入院や手術が必要な場合があります

*極めてまれに死亡（0.0001% 100万人に1人）することもあります。

*造影剤を勢いよく注入すると、血管から漏れることがあります。検査中はできるだけ腕を動かさないでください。漏れても、時間とともに吸収されるので通常処置は必要ありません。（ただし非常にまれですが、大量にもれると処置が必要になる場合があります。）

説明日： 年 月 日 医師名 _____ 印

上記に同意されましたら、下記の署名欄にご記載ください。

年 月 日

患者署名欄 _____

※以下の理由に該当する場合は、下記の代筆者・代諾者署名欄の記載もお願いします

- ・上記患者氏名を患者本人ではない別の方が代筆した場合
- ・患者本人が未成年の場合、または意識障害など患者本人の判断が困難な場合
（保護者・親権者・親族・後見人などの代諾が必要）

代筆者・代諾者署名欄：

氏名 _____（続柄 _____）